

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22330066

研究課題名(和文)「新自由主義」の歴史的多様性：社会哲学と経済構想

研究課題名(英文)Historical Diversity of new liberalism: its social philosophy and economic vision

## 研究代表者

姫野 順一 (HIMENO, Junichi)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科(環境)・客員教授

研究者番号：00117227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、経済構想と社会哲学を軸に新自由主義の歴史的多様性を解明した。フリーデンのイデオロギー分析の方法およびタイラーとジェルソンのその展開、ハウチャーとヴィンセントによるイギリス理想主義の研究を受け止め、これを基盤として姫野と江里口はイギリスの、黒木はアメリカの、江頭はドイツおよびオーストリアの、姫野および関は日本の新自由主義の比較研究を実施した。深貝と新村は新自由主義を古典的自由主義と対比した。さらに、欧米からオッター、トイ、モアフィールド、スロマン等の研究者を招聘し、帝国史、労働史、政治経済政策思想に絡む20世紀の新自由主義の展開を解明した。

研究成果の概要(英文)：We elucidated the historical diversity of new liberalism on the views of both economic vision and social philosophy.

On the ground of analytical method of ideologies by Michael Freeden and its successors, and also on the study of British idealism by David Boucher & Andrew Vincent, Himeno & Eriguchi examined the new liberalism of UK, Kuroki of U.S., Egashira of Germany & Austria, and Himeno & Seki of Japan. Fukagai & Niimura contrasted new liberalism with classical one. In aids of foreign scholars like Sandra Otter, Jeanne Morefield, and John Sloman, we advanced the studies of new liberalism in 20th century relating to the imperial history, labor history and politico-economic policy thought.

研究分野：経済学説・経済思想

キーワード：新自由主義 経済構想 社会哲学 歴史的多様性 地域比較 時代比較 イデオロギー分析 イギリス理想主義

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 20世紀最終盤からグローバリズムの深化の中で、自己責任、自立的個人、幸福原理主義などをパッケージとした「新自由主義」が宣揚された。それは福祉国家の庇護のもとで活力が低下したとするサッチャーリズムや、大きな財政負担からの脱却を図るレーガノミクス、日本的慣行の閉鎖性を払拭しようとした小泉改革のもとで強烈に主唱された。

(2) 一方で、エスピン・アンデルセンの福祉国家の類型論に見られるように、福祉国家は財政や社会保障の実態面や、それを支える政治経済の理論面も進展した。「小さな政府」と市場メカニズムの活用、資源の効率的利用の言説が流布し、この新自由主義を原理的に支えるノージックやハイエクの政治哲学、社会哲学が示され、社会を語り、経済を見直すキーワードも急速に変化し、「新」自由主義の言説に多様な意味が付与されてきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、こうした一連の社会状況の変化を念頭に置きつつ、単に後退した福祉国家に回帰するのではなく、その経済構想と社会哲学の関係に焦点を絞り、「新」自由主義の地域的・歴史的な多様性を解明する。そのために各国比較と時代比較を実施し、「新自由主義」を思想的・社会哲学的に再検討する。

## 3. 研究の方法

(1) リーディングカントリーであるイギリス、アメリカ、ドイツ(オーストリア)、フランスおよび日本における「新自由主義」の多様な歴史的側面を、経済構想と社会哲学に焦点を当てて比較研究する。

(2) 18, 19世紀の古典的自由主義の経済構想と社会哲学に注目し、これ以前の自由思想とおよびこれ以後の自由主義に区別し、内容の推移について異時点間の比較を試みる。

(3) 20世紀の戦間期から戦後にかけて各国で急速に進展する新自由主義の変容について、諸因子を詳細に析出する。

(4) 研究は以下のような5つの分析の柱を持つ。

- ① 古典的自由主義の再検討
- ② human-being、common good を継承する新自由主義の解明
- ③ 社会主義の要素の析出
- ④ 全体主義との対位の図式
- ⑤ 格差の解析

## 4. 研究成果

本研究により、経済構想と社会哲学を軸にした新自由主義の歴史的な多様性が以下のように解明された。

(1) オックスフォード大学から政治理論の専門家として新自由主義についても造詣の深いマイケル・フリーデン教授(当時)を招請し、イデオロギー分析における新自由主義の理論分析の方法についての問題提起を受け、またその弟子であるコリン・タイラーおよびガール・ジェルソンから、D.G. リチャーおよび啓蒙主義との関係の示唆を受け、これらをプロジェクトのメンバーで受容した。

(2) イギリス理想主義についてはカーディフ大学のデイヴィッド・パウチャーおよびアンドリュー・ヴィンセント両教授を招聘し、コリンウッドの影響および新自由主義の性格変容について示唆を受け、これらをプロジェクトのメンバーで受容した。

(3) これらの問題提起を基盤に、イギリスについては姫野がホブスン、ホブハウス、およびボザンキットについて、江里口がウェーブ夫妻の新自由主義およびそのスウェーデン福祉国家について、高哲男がD.G. リチャーの社会進化論について解明した。アメリカについては、黒木とロス・エメットがフランク・ナイトの新自由主義を、デヴィット・シーブレレイがアメリカのプロGRESSIVISMを検討した。ドイツとオーストリアについては江頭とマックスプラント研究所のウルリッヒ・ヴィットがハイエクの自由主義と社会正義について解明した。フランスについてはソルボンヌ大学のアン・コットがチャールス・ジードの新自由主義について解明した。日本については姫野は河合栄治郎、長谷川如是閑、石橋湛山といった新自由主義者の主張を解析し、関が民主党の綱領の推移を検討した。さらに姫野は研究の進展を踏まえて、日本における新自由主義研究の開拓的な著書、塩野谷祐一『ロマン主義の経済思想』東大出版会、柴田秀幹『ボザンケと現代政治理論』芦書房、平石耕『グレアム・ウォーラスの思想世界』未来社を書評し、研究上の問題点を抉り出した。

(4) 古典的自由主義の変質、新自由主義との対比に関して、深貝が中世主義からの古典的自由主義の批判を解明し、新村はアダム・スミスを基軸としながら、社会契約論、統治論におけるは古典的自由主義の展開を解明した。

(5) 20世紀における新自由主義の展開については、ケンブリッジにおける新自由主義研究の開拓者ピーター・クラークを継承するリチャード・トイを招請し、労働党と議会の関係の変化の推移について、研究成果を受容した。またフリーデンの新自由主義研究およびベン・ジャクソンの社会主義研究を継承するオックスフォードのジョン・スロマンを招請し、戦後のイギリスにおける政治経済的政策思想の変化の研究成果をプロジェクトのメ

ンバーで受容した。さらに同じくフリーデンの学燈を継承するアメリカのホイットマン・カレッジのジェーン・モアフィールドを招聘し、国際関係論における新自由主義の展開、特にアルフレッド・ジンメルンおよびラウンド・テーブルの政策思想の研究をプロジェクトのメンバーで受容した。また同じくカナダ、クイーン大学のサンデル・オッターを招聘し、イギリスの帝国世界における新自由主義の展開要素として、共同体、習慣、法の役割のクローズアップをプロジェクトのメンバーで受容した。これらの研究に対し、日本側からは、プロジェクトの外部から招聘した寺尾範野、平石耕と交流し、論点はプロジェクトの研究メンバーにフィードバックされた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

- ① 深貝保則、エコノミー、経済統治、あるいは自然均衡—オイコミアからの複線的伏流、エコノミア、査読無、第 1 号、2015、108,119
- ② 深貝保則、<最大多数の最大幸福>と<最大多数の幸福原理>—いわゆるベンサムの変換、原則と流布をめぐって、エコノミア、査読無、65、2014、13,27
- ③ 姫野順一、書評柴田秀幹『ボザンケの現代政治理論—多元的国家、新自由主義、コミュニタリズム』、イギリス哲学研究、査読無、2014 年、63,64
- ④ 江里口拓、L.T.ホブハウスの福祉政策論と経済思想：富の社会的要素、西南大学経済学論集、査読無、49,2014,1,26
- ⑤ 姫野順一、書評『グレアム・ウォーラスの思想世界—来るべき共同体の構想』(平石耕著)、社会思想オン研究年報、査読無、38、2014,241,245
- ⑥ 姫野順一、書評「塩野谷祐一『ロマン主義の経済思想』東京大学出版会、経済学史研究、査読無、2014,130,141
- ⑦ 深貝保則、オイコス・ノモス、オイコミア、エコノミー、エコノミア、横浜国立大学、査読無、64-1、2013,79,94
- ⑧ 新村聡、アダム・スミスの社会的自由主義—金融規制政策と所得再分配政策を中心に—、経済科学通信、査読無、129、2012、62-67
- ⑨ Yamamoto, K. and Egashira, S., Marshall's Theory of Organic Growth, *European Journal of History of Economic Thought*, 査読無、2012、19 (2)、227-248
- ⑩ 黒木亮、フランク・ナイト、週刊エコノミスト、査読無、2012、90-18、52-53
- ⑪ 関源太郎、18 世紀中葉スコットランドの救貧思想 (仁)、経済学研究、査読無、79-2、3 合併号、2012、35-53
- ⑫ 関源太郎、18 世紀中葉スコットランドの救貧思想 (一)、経済学研究、査読無、79-1、2012、1-20
- ⑬ 深貝保則、生存をめぐるエコノミー—近代の了解・再考に向けて— (1)、横浜国際社会科学研究所、査読無、17-1、2012、1-12
- ⑭ 江頭進、ハイエクとシカゴ学派—方法論と自由主義—、経済学史研究、査読有、53 (2)、2012,41-58
- ⑮ 黒木亮、フランク・ナイトの経済学・競争体制批判—シカゴ”学派”再考、経済学史研究、査読有、553-1、2011、21-43
- ⑯ Eriguchi, T., Sidney and Beatrice Webb and the Swedish Welfare State: a Preliminary Consideration, *Economic Review of Seinan Gakuin University*, 査読無、46(1,2),2011,227-248
- ⑰ 江里口拓、ウェッブ夫妻とスウェーデン—「国民的効率」からレーン・メイドナー・モデルへ—、『社会福祉研究』愛知県立大学教育福祉学部、査読無、2010、12、1-11
- ⑱ Egashira, S., Two-Countries Negotiation Game by Players Presuming the Opponent's Payoff Structure, *Evolutionary and Institutional Economic Review*, 査読有、6.2, 2010、245-276

[学会発表] (計 21 件)

- ① Fukagai, Y., Happiness and Human Well-being Reconsidered: Concept, History and Measurement, The 13<sup>rd</sup> Conference of the International Society for Utilitarian Studies, 20-22/8/2014, Yokohama National University (神奈川県・横浜市)
- ② 新村聡、アダム・スミスの家族法論、経済学史学会、2014 年 5 月 25 日、立教大学新座キャンパス (埼玉県・新座市)
- ③ Himeno, J., The transformation of Liberalism for the British Empire in 1900-1910, International Workshop of the New Liberalism, 23/2/2015, Nagasaki University, (長崎県・長崎市)
- ④ 黒木亮、J.M.クラーク『隷属に代わる道』をめぐる—考察、アメリカ思想史研究会、2014 年 10 月 11 日 日本大学 (東京都・千代田区)
- ⑤ Egashira, S., Hayek and Evolution: Discussion with Japanese biologist, Kinji Imanishi, 18<sup>th</sup> Annual Conference of European Society of History of Economic thought, 21/6/2014 Lausanne University, Lausanne (France)
- ⑥ Niimura, S., Adam Smith as Egalitarian: Responses to Rousseau's

- and Hume's Critiques of Inequality, 21/6/2014, Annual Conference of History of Economic Thought, University of Quebec, Montreal (Canada)
- ⑦ 江頭進、ハイエクの相対価格論、第3回ケインズ学会、2013年12月8日、専修大学(神奈川県・川崎市)
- ⑧ Niimura, S., Adam Smith's Views on Economic Equality and Inequality, The 17<sup>th</sup> Annual ESHET Conference, 17/5/2013, London (UK)
- ⑨ 江里口拓、ウェット夫妻とスウェーデン・モデルの接点をめぐる予備的考察、経済学史学会西南部会、2012年12月8日、西南学院大学(福岡県・福岡市)
- ⑩ 深貝保則、オイコノミア、エコノミー、そして経済—概念と知の類型、社会思想史学会、2012年10月27日、一橋大学(東京都・国立市)
- ⑪ 江里口拓、ウェット夫妻から見たスウェーデン・モデル—福祉国家の比較思想史の手がかりとして、社会政策学会九州部会、2012年9月29日、西南学院大学(福岡県・福岡市)
- ⑫ 江里口拓、ニューリベラリズムと進化論のアナロジー、経済学史学会、2012年5月27日、小樽商科大学(北海道・小樽市)
- ⑬ 江里口拓、ウェット夫妻とLSEの公共政策：一次大戦後イギリスにおけるガバナンスの構想、経済学史学会、2011年11月5日、京都大学(京都府・京都市)
- ⑭ 姫野順一、20世紀初頭におけるニュー・リベラリズムと「正義」のコンテキスト、日本イギリス哲学会、2012年3月27日、ICU(東京都・三鷹市)
- ⑮ 深貝保則、近代人の発見／再発見と主体および秩序の交錯、社会思想史学会、2011年10月30日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)
- ⑯ 新村聡、分業と人間発達、人間発達の経済学国際会議、2011年4月24日、中国政法大学、北京(中国)
- ⑰ 深貝保則、ヴィクトリア期の時代思潮における中世主義と古典主義、日本イギリス哲学会大会、2011年3月29日、京都大学(京都府・京都市)
- ⑱ 姫野順一、『J.A.ホブスン 人間福祉の経済学：ニューリベラリズムの展開』(昭和堂、2010年)を書き終えて：経済学史と知性史の交錯、経済学史学会第110回西南部会、2010年12月11日、九州大学(福岡県・福岡市)
- ⑲ Eriguchi, T., Theory of the Webbs on National Minimum and the Future of British Economy, HETSA2010 (History of Economic Thought Society of Australia, 9/7/2010, University of Sydney (シドニー・オーストラリア))
- ⑳ 姫野順一、「言語の束」としての20世紀初頭の『自由帝国』思想：アダム・スミス解釈の分枝として、経済学史学会第74回全国大会、2010年5月22日、富山大学(富山県・富山市)
- ㉑ Himeno, J., Reconsidering the definition of New Liberalism and its variants, International Workshop: "Cambridge, LSE, and the Foundations of the Welfare State: New Liberalism to Neo-liberalism, 13/3/2010, University of Hitotsubashi (東京都・国立市)
- [図書] (計20件)
- ① 江頭進、新世社、初めての人のための経済学史、2015年、215
- ② 姫野順一、昭和堂、マルサス ミル マーシャル：人間と富の経済思想、2014年225,254
- ③ 深貝保則・戒能道弘編、ナカニシヤ書店、ベンジャミン・ベンサムへの挑戦、2014年、390
- ④ W. Elvio Egashira, S., Brownlee, Ide, E, and Egashira, S., Cambridge University Press, *The Political Economy of Transnational Tax Reform: The Shoup Mission to Japan in Historical Context*, 2013, 396
- ⑤ Takahashi, T. and Egashira, S., Palgrave Macmillan, *Hayek and Behavioral Economics*, 2013, 177, 196
- ⑥ 江頭進、晃洋書房、グローバルな危機の構造と日本の戦略 グローバル公共財入門、2013年、164, 166
- ⑦ 新村聡、中国经济出版社、人間発達経済学新進展、北京：2013年、66, 73
- ⑧ 江里口拓、ミネルヴァ書房、創成期の厚生経済学と福祉国家、2013年、283, 308
- ⑨ 江頭進、ナカニシヤ出版、グローバリズムと北海道経済、2013年、289
- ⑩ Egashira, S., Palgrave Macmillan, *Globalism and Regional Economy*, Palgrave Macmillan, 2013, 289
- ⑪ 新村聡、文理閣、アダム・スミス『邦楽講義Aノート』Police編を読む、文理閣、2012、3, 18
- ⑫ 新村聡、日本評論社、回想 小林昇、2011、34, 51
- ⑬ 新村聡、京都大学学術出版会、啓蒙と社会—文明観の変容、2011、241, 272
- ⑭ 江頭進、日本経済評論社、進化経済学の諸潮流、2011、19, 40
- ⑮ 江頭進、ミネルヴァ書房、現代経済思想、2011、149, 164
- ⑯ 新村聡、ミネルヴァ書房、経済思想の中の貧困・福祉、2010、34, 63
- ⑰ 西部忠、吉田雅明監、江頭進・橋本敬・澤辺紀生編、日本経済評論社、進化経済学基礎、2010、284 (混在ページ)
- ⑱ 姫野順一、昭和堂、J. A. ホブスン 人間福祉の経済学：ニューリベラリズムの展開、2010、295

- ⑱ 江頭進、昭和堂、イギリス経済学における方法論の展開、2010、294, 391
- ⑳ Egashira, S., Routledge, *Hayek's Cognitive Psychology*, 2010、276, 289

6. 研究組織

(1) 研究代表者

姫野 順一 (HIMENO, Junichi)  
長崎大学・水産・環境科学総合研究科(環境)・客員教授  
研究者番号：00117227

(2) 研究分担者

深貝 保則 (FUKAGAI, Yasunori)  
横浜国立大学・経済学部・教授  
研究者番号：00165242

黒木 亮 (KUROKI, Ryo)  
獨協大学・経済学部・准教授  
研究者番号：90364728

江里口 拓 (ERIGUCHI, Taku)  
西南学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：60284478

江頭 進 (EGASHIRA, Susumu)  
小樽商科大学・商学部・教授  
研究者番号：80292077

新村 聡 (NIIMURA, Satoshi)  
岡山大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：00167561

平成 22～24 年度

関 源太郎 (SEKI, Gentaro)  
九州大学・経済学研究院・教授  
研究者番号：60117140